

様式 2

番号 観点	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教科書名
	2・東書	第1学年 第2学年 第3学年 第4学年 第5学年 第6学年	書写 131 書写 231 書写 331 書写 431 書写 531 書写 631	新編 あたらしいしよしゃ 一 新編 新しいしよしゃ 二 新編 新しい書写 三 新編 新しい書写 四 新編 新しい書写 五 新編 新しい書写 六
取 扱 内 容	<p>硬筆について 第1,2学年では、画の長さや方向の違いを確かめたり、画の付き方を比べたりする活動を通して、文字を正しく書く、第3,4学年では、漢字が偏になった時の形の違いを考えたり、左右、上下などの組立て方を確かめたりする活動を通して、文字の形を整えて書く、第5,6学年では、便せんや色紙など様々な用紙に合わせて書く活動を通して、用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めて書く活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>毛筆について 第3,4学年では、1~2字の漢字や平仮名の題材で、点画の形とその形を作る筆の動きに注意しながら書く活動を通して、点画の種類を理解し筆圧などに注意して書く、第5,6学年では、4字までの文言の題材で、小筆や筆ペンなどを使用して点画相互、文字のつながりを意識して書く活動を通して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書く活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>硬筆と毛筆の関連について 第3,4学年では、文字の中心や筆順、文字の組立て方の理解など、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動を通して、毛筆による書写の学習により硬筆による書写の能力の基礎を身に付ける、第5,6学年では、筆順や点画のつながり、字形や文字の配列についての理解など、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動を通して、毛筆による書写の学習により硬筆による書写の能力の基礎を身に付けるなど、硬筆と毛筆の関連を図った教材を32扱い、目標を達成できるようになっている。</p> <p>知識・技能の習得、活用、探究への対応について 第1,2学年では、「生活に広げよう」において、いろいろなものに名前を書いたり、お世話になった人に感謝状を書いたりするなど、第3,4学年では、「生活に広げよう」において、調べたことをまとめてカードに書いたり、文字の大きさや字形の整え方に気を付けて新聞記事を書いたりするなど、第5,6学年では、「生活に広げよう」において、筆記具を選んでパンフレットを書いたり、調べたことを模造紙に書いたりするなど、日常生活との関連を図った教材を28扱い、基礎的、基本的な知識、技能の習得を図る活動を取り上げている。</p>			
内 容 の 構 成 ・ 排 列 、 分 量 等	<p>内容の構成・排列について 第1学年では、平仮名について「曲がり、折れ」など、点画や筆順、文字の形の学習の後に、片仮名や漢字の学習を取り扱い、第2学年では、漢字について点画の長短や方向、筆順、点画の接し方や交わり方の学習の後に、文章表記を取り扱い、第3学年では、毛筆について1字の漢字の始筆、送筆、終筆や点画、筆圧の学習の後に、2字の平仮名の「曲がり」などの筆使いについて取り扱い、第4学年では、毛筆について1字の漢字の画の長さ、間隔などの学習の後に、2字の漢字の筆順と字形の関係や硬筆との関連、平仮名の筆使いを取り扱い、第5学年では、毛筆と硬筆の関連を図った2字の漢字や平仮名の筆順と字形、点画のつながりの学習の後に、文字の大きさや配列について取り扱い、第6学年では、毛筆と硬筆の関連を図った1字の漢字の組立てや2字の筆順、字形を整える点画の学習の後に、4字の字間・行間や余白について取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がなされている。</p> <p>内容の分量について 第1学年～ 硬筆は30ページであり、総ページ数は41ページである。 第2学年～ 硬筆は28ページであり、総ページ数は41ページである。 第3学年～ 硬筆は4ページ、毛筆は20ページであり、総ページ数は49ページである。 第4学年～ 硬筆は3ページ、毛筆は19ページであり、総ページ数は49ページである。 第5学年～ 硬筆は4ページ、毛筆は19ページであり、総ページ数は49ページである。 第6学年～ 硬筆は5ページ、毛筆は20ページであり、総ページ数は49ページである。</p>			
使 用 上 の 配 慮 等	<p>学習のヒントを投げかけるキャラクターが登場したり（全学年）、「かさこじぞう」（第2学年）や論語（第6学年）などの国語の教科用図書との関連を図った教材を12取り扱っており、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>書写の学び方について教材ごとに自己評価欄を設けたり（全学年）、硬筆を中心に直接書き込むスペースを確保したり（全学年）するなど、児童が主体的に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>巻頭に文字に関連した教材（全学年）や、巻末に書写に関連したコラム的な記事（第3～6学年）を掲載したり、読みやすくなるよう文節で改行したりするなど、使用上の便宜が図られている。</p>			
その他				